

農業情報総合研究所／いちじくレポート
 「都市近郊農業の強みと将来のニーズの開拓」
 ／藤井農園（羽曳野市）

羽曳野市はいちじくの産地です。いちじく農家は30軒ほどあります。大阪市内から電車で30分ほど。都市近郊の農業の盛んな地域です。いちじくのほか、ぶどうやトマトなどの生産も行われます。

藤井農園を訪問しました（2024年9月15日）。藤井貫司さんにご案内をいただきました。60年以上前から、いちじくの生産を続けています。現在、6か所の畑で生産しており、面積は60アールになります。いちじくは柘井ドーフィンを中心に生産しています。一文字仕立てで行っています。色付きを良くするために、白マルチを敷いています。雨水のほか、灌水もしています。雨除けはありませんでした。近年の夏の暑さのために収穫時期が早くなっています。今年は雨が少なかったために、収量は減りましたが味は濃くなっています。収穫は午前1時から行っています。このほうがいちじくが甘くなります。その後、パック詰めを行い、スーパー向けに出荷します。

藤井農園のいちじくは、実が大きいのが特徴です。香りも良く甘くてコクがあります。藤井農園の直売所では、完熟のいちじくが販売されています。訪問した際にも、数組からのお客がいらしていました。ファンが多いようです。完熟したいちじくは流通が難しいですが、都市近郊農業の強みを活かされています。藤井農園オリジナルのいちじくバターといちじくビールも販売されていました。

とはいえ、羽曳野市の子どもでもいちじくを食べたことがないことが多いようです。好きになってもらうきっかけとして、マルシェ仲間とともに羽曳野市内の小学3年生全員800人にいちじくを配り、将来のニーズを開拓するプロジェクトを進めています。

